

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

すさみ町立周参見中学校

教諭 谷口 祐也

1 単元名 ふるさとすさみに誇りを持とう ～レタスから町おこし～

2 単元の目標

- レタスの発祥地となった歴史、先人たちの功績について理解し、自分たちの言葉でパンフレットにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 文献や聞き取り調査、体験活動をもとに、レタスについて調べたことをパンフレットにまとめ、町内や町外へ発信することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- ふるさとすさみに誇りを持ち、意欲的に調べ学習を行い、学んだことをパンフレットにまとめることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、レタスの発祥地としての歴史を通して、ふるさとの先人、産業を知り、町おこしについて考える。

すさみ町で活躍されているレタスの農家の方を招き、レタスの歴史、現在の状況を学ぶ。さらに、レタスの定植作業（苗を植え替える）や収穫を通して、レタスについての理解を深める。また、すさみ町にある郷土料理をもとにして、収穫したレタスを使った新メニューを考える。そのような活動の中で地域の方々と交流し、人とのつながりの心地よさ、コミュニケーション能力を育みたい。そして、レタスで「町おこし」をどのように進めるのか、その難しさについて考えていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、第一学年において、「ふるさと自慢」をテーマにすさみ町の特産物について調べる活動を行っている。この活動を通して、レタスが特産物であることなどを知っている。ただ、なぜ特産物になったのか、先人たちがどのようにして取り組んできたのかなどは知らない。「食」に関するテーマは生徒にとっても身近であるため、活動への意欲が高まるであろう。ふるさとへの理解を深めるためにも、レタスの歴史と現状をしっかりと押さえさせたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、すさみ町の産業別人口のグラフや農業データを提示する。過去や他市町村との比較から、農業に従事している人が減少していること、どのような農畜産物が栽培されているかなど農業の現状について気づかせる。

次に、すさみ町で活躍されている農家の方と交流し、レタス畑に訪問する。定植作業や収穫を通して、レタス農家の苦労、農業の大変さや楽しさ、すさみ町のレタスづくりについて理解を深める。

そして収穫したレタスを使ったメニューを考える。調理実習を通して、レタスの美味しさを実感し、ふるさとの味を知る。レタスを通してすさみ町を盛り上げていく方法を考えていく。

これらの活動を通して、学習者の疑問や課題を取り上げ、それをグループで協力して調べることや、聞き取り調査を行い、意欲的に取り組ませていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…すさみにはこれからも大切にしていきたいもの、よさがいろいろある。(レタス、産業、自然)
有限性…長く大切に守られてきたものは、いつかなくなってしまうかもしれない。
責任性…未来に引き継いでいくのは、ここに住む自分たちの使命である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予想して計画を立てる力

レタスの経済的な面を考え、町おこしをどのような進めていくのかを計画する。

コミュニケーションを行う力

地域の人々がどのような思いでレタスを作ってきたのか、レタスを通してのまちづくりについて、意見交流し自分の考えをつくりあげる。

つながりを尊重する態度

地域の農家の人々との関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。

進んで参加する態度

地域の産業のために自分にできることはないかと考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、考えをつくらうとしたりして、地域社会に貢献しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代間の公正

すさみ町に受け継がれてきたものは、次の世代へときちんと引き継がなければならない。

・自然環境、生態系の保全を重視する

すさみ町の自然を守っていかなければならない。

・人権・文化を尊重する

すさみ町の食文化を引き継いでいかなければならない。

・幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

・達成が期待される SDGs

2 飢餓をゼロに

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①レタス栽培がどのように始まり、現在に引き継がれているのかを理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①資料や話をもとに、レタスの課題を見だし、町おこしのための方策を考えることができる。</p> <p>②レタスについて学んだことや考えたことをスライドにまとめている。</p>	<p>①地域の人々がふるさとを誇りに思えるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に農家の人々と関わろうとしている。</p> <p>②レタスについて学んだことを地域の人に納得してもらえるように発信しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全 16 時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 1年時の学習を振り返る。 特産物であるレタスについての「質問づくり」 Q いつすさみ町はレタスの発祥地となったのか。 Q どのようにしてすさみ町はレタスの発祥地となったのか。 Q 誰がレタスの栽培を始めたのか。 Q なぜすさみ町がレタスの発祥地であるのか。 などの問いを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時の学び（ふるさと学習）から考える。 ・全員から問いを出させる。 	ア①
<p>2 レタスの歴史について知る。 ・レタス栽培に気候が適していたから。 ・サンタマリアのレタス王がいたから。 ・農業が盛んであったから。 当時、関西随一のレタス栽培地であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問いに対し、副教材や町史、インターネット検索で調べる。 ・調べた内容はスライドへまとめさせる。文献調査で分からなかったところは聞き取り調査で質問する。 	イ②
<p>3 レタス農家を訪問しよう。 ・レタスの苗植えを体験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のレタス栽培の現状をつかませ、レタス栽培の方法についても理解させる。 	ア①
<p>4 活動の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動へと発展させるために、体験を通して得た思いを想起させる。 	ウ①

<p>5 レタスを使ったメニューを考え、町おこしにつなげる。</p>	<p>・どのようなメニューが開発されてきたのかを知り、自分たちが食べてみたいと思う料理を考えさせる。</p>	
<p>6 活動の振り返りをする。 これまでの取り組みをスライド・パンフレットにまとめる。</p>	<p>今後の活動へと発展させるために、地域の一員としての自覚を持たせるようにする。</p>	<p>ア② イ② ウ②</p>

*来年はレタスとイノブタについてまとめていくのもおもしろいかも矢形さんと話して、開発メニューを「むろべ」で出してもらおうとか。レタスのパンフレットをオークワに置いてもらえないか。

レタスの歴史をどのように調べるか、2人の人物を通して。

- ・レタスのパンフレットを作成し、メニュー表もつける。
- ・すさみ中学校の畑でレタスを栽培できないか。